



大草小学校だより

第12号

令和5年10月16日

校長 山口 隆

実りの秋

無事に学校田の稲刈りを終わりました。今回も多くの地域・保護者・大草塾の皆さんに助けをもらいながら、達成感を子どもたちに味わわせることができました。みんなで作った^{かかし}案山子がすずめから守ってくれたのでしょう。実が十分についているようでした。実家で米作りをしていたころのことを色々と思い出しました。機械を扱わせてもらえるようになってから楽しくなってきたこと、木陰で昼食をとって休憩するときに食べるみかんの美味しかったこと、マムシに遭遇しながらも長靴を履いていて事なきを得たこと…。どれも懐かしい思い出として、なき父とともに思い出されるのです。今回の体験が子どもたちの記憶の1ページにふるさとの原風景としてしっかり残ってくれたら幸いです。

学習についても様々な実りがあります。5、6年生は修学旅行、2、3、4年生は社会科見学、1年生は校外学習にそれぞれ出かけて学びを深めているところです。大草の自然について、1学期に引き続きゲストティーチャーの中原先生から学びました。みかん選果場や十六善神社で学ぶ計画も進んでいます。

また、3年生以上で縦割りグループを作ってノートを共有し、交代で自主学習に取り組む、「自主学習縦割りチャレンジ」も始めました。グループ全員回すと、ノートに貼ってあるマス（職員の似顔絵イラスト付き）を進め、該当の職員に見せに行きます。事務の山元先生が作ってくれたこのマスがとっても好評ですので、ぜひ回ってきたときは見せてもらってください。

平和とは何か

10月5日は、諫早文化会館で行われた「戦没者慰霊祭」に参列してきました。遺族代表で話された方は、お父さんが出征するときお母さんのおなかの中において、結局一度も会えずじまいだったそうです。産まれたときの写真を戦地に送ると大いに喜んで、一度きりですが返事を書いてきたそうです。お父さんもどんなに会いたかったことでしょう…。その手に抱きかかえたかったことでしょう…。

もし、このような方に「今の日本は平和ですか？」と聞かれたとき、「平和です」と言えるでしょうか。

10月12日は諫早市で過去痛ましい事件があった日でした。下校時、子どもたちの笑顔を見ながら、この笑顔をいつまでも絶やすことのないように学校づくりをすすめていく思いを新たにしました。「みんな笑顔で過ごせています！」と言えるように。

